



昭和八年五月二十四日消印
 牛込区葉王寺町八六
 佐藤道頭様

(差出人) 木村莊八

「冠省

今日、津田青楓塾の展覧会を見に神田の東京堂へ出掛けて、金井紫雲君に出会いました処、十五日夜の東京毎夕新聞のニュース放送で、春陽会が遠からず解散云々と云ふやうな与太放送があつた由を聞かされてビツクリしました。当日の東京毎夕新聞第一面には小生が執筆して、裕伊之助・小山敬三両氏の脱退正式承認と、田中謹左右以下四名の新会友推薦記事を載せて置きましたのに、どうしてそんな与太放送をしたか不思議でなりませんので、調べて見ましたら、社の放送係の勢馬と云ふ記者が、通信社から来た通信をその儘社のニュースとして放送局へ提供した為に、間違ひを生

じたのださうで、私としては春陽会の諸氏に申訳のないやうな変なことになつてしまひましたが、全くその放送のあつたことさへ今日まで知らなかつたのです。春陽会の会員諸氏は私の心事を諒解してゐて下さるでせうが、万一誤解があつてはと存じ、尊兄へまで右御報告を申上げて置きます。何卒然るべき機会に釈明して置いて頂きたいと存じます。

十八日夜

田軒生

毎夕の田澤田軒君から右書簡を貰ひましたので、原文のまま諸家へ御取次します。

猶、放送の種にしたのは十五日の電報通信で、その原文も送られました。これは長文ですから、委員会にて披露します。

次の会員会は今月末に開きたいといふ希望者があります。以上

木村生

田澤田軒（一八八五年〜一九五二年 本名・良夫）
 東京都出身。中学卒業後、兵役。除隊後東京毎夕新聞社に入社。美術部を創設して美術部長となる。後外交部長を経て、編集局長。北京の東亜新報社に転じ、東京支社駐在員として美術、学芸欄の記事を担当。戦後、産業経済新聞社に入社、美術部主任となる。